

(参考様式1) 議事録

令和6年度 第3回 学校運営協議会（定時制部会）議事録

校名	大阪府立大手前高等学校
准校長名	渋川 雅宏

開催日時	令和6年2月20日（木）15:00～16:00
開催場所	大阪府立大手前高等学校 会議室
出席者（委員）	平野 智之、高木 学、平田 和也、佐藤 道廣、堀 剛士
出席者（学校）	渋川 雅宏、石野 靖、矢野 直子、川端 俊範、神原 優希、 砂田 純平、佐藤 知弘、山田 健太朗、櫻井 俊介、鈴木 俊哉、 山本 蒼一郎
傍聴者	なし
協議資料	令和6年度学校経営計画及び学校評価（案）、 令和7年度学校経営計画及び学校評価（案）
備考	なし

議題等（次第順）
1 授業アンケート評価の変化について 2 学校教育自己診断まとめについて 3 令和6年度学校経営計画及び学校評価（案）・令和7年度学校経営計画及び学校評価（案）について
協議内容・承認事項等（意見の概要）
1 授業アンケート評価の変化について ・アンケート結果で、前回の家庭科の値について心配していたが、戻っており、良かったと思う。 ・説明の中で、「学力が向上した」という話があった。自作のテストや学力テストの結果に基づくものであると思われるが、何によって学力が向上したのか。 →学校の出口（進路結果）について、現役で立命館大学に合格した生徒がいることをもって学力が向上したと考えている。授業や進路指導等で手厚く指導してきた結果、進路結果に結びついたと考えている。 ・進路選択で受験を考えている中学生のために、先ほどの出口である大学進学以外の進路先をお聞きかせ願いたい。 →今年度は、看護の専門学校1名、電気系1名、鍼灸マッサージの専門学校が1名、学校斡旋による就職が1名、その他は今のアルバイトの継続となっている。 ・仕事に結びつく専門学校への進学ということがわかった。

・次の議題の学校教育自己診断にも関連するが、「教え方を工夫する」など、先生方が丁寧な授業を作られていると感じたので、生徒支援の部分（発達障害のある方や日本語指導が必要な生徒に対する丁寧な指導の部分）の工夫や NHK の番組で放映された「宙わたる教室」のように、生徒が面白がって、自主的・自発的に取り組んだ具体的例があれば紹介してほしい。

・また、保健体育科の 3.89 のように高い数値が出ているように、生徒がやらされていると感じるのではなく、自分たちで学んでいるというような場面があったのだろうと想像している。丁寧な支援の事例や主体的に取り組んだ事例があれば紹介してほしい。

→お話をいただいた保健体育科については、全日制の課程であれば、40 人の生徒を教員 1 名が指導（担当）するが、本校の定時制の課程の場合は、生徒の安全を第 1 に考え、教員 4 人で役割分担をして、学力向上につながるような丁寧な指導をしており、その様子は授業見学で確認できている。また、座学においても、教員の取り組みによって TT（チームティーチング）を実現して、一人は教壇に立って全体的指導する教員、もう一人は個別指導（ノートをとっていてわからなくなった場合や、学習についていけなくなったところを個別に指導）を担当する教員の体制がある。これ以外にも、外部人材を活用した学習支援（学習支援スタッフ、学習支援員、夜間介助員）の取り組みを行っているが、それらが歯車のようにかみ合って、相乗効果を生み、一つ一つが積み重なって学力向上につながり、その結果、生徒への満足につながったと考えている。

→また、TT の取り組みや外部人材の活用により、ひとクラス約 10 人の生徒に対して、3・4 人が入り込み、手厚い指導を実施していると自負しているところである。

・体育に関連して、腰痛のある我が家の生徒にこれまで教員からよく声かけをしていただいております。修学旅行時には、常に同行していただいた。このようにいろんな場面で身体的な気遣いがあったことについて、ことあるごとに我が家で報告を受けている。また、授業でわからないところについては、放課後等での質問に対して、毎回丁寧に答えていただいたことを家でよく聞かされている。これこそが本来の教育の在り方であると実感している。

・教科担当の先生方から、ぜひ、今年度うまくいったことなど、紹介（共有）していただきたい。

→本校では、防災に力を入れており、講演会における「防災学習」に加え、「地域連携による避難場所開設実習」を行っており、その実習の後に、「生徒と教材との距離を近づける」というテーマを設け、国語科の授業の中で、防災に関連する教材を提示し、生徒に防災について考えさせたことで、教材との距離（近さ）が生徒の学びへの意欲をかきたて、より深い学びに結びつくと考え実践しているところであ

る。

- ・生徒の興味・関心と教材を結び付けている良い例と思う。

2 学校教育自己診断まとめについて

- ・【生徒の意見】で、「担任の先生以外にも気軽に相談できる先生がいる」ところがかなり上がっている。担任だけでなく学年として学校全体として生徒全体をみていくことが反映されていて、いい数字であると思う。
- ・【教職員の意見】の19番では、「いじめ（疑いを含む）が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている」の数値が少し下がっているようだ。これについては、より教職員のほうが、意識が全体としていじめに対してもっと丁寧に見ていこうと思われている数値なのだろうと思う。
- ・このことについて、何か課題や心当たりがあれば教えてほしい。

→いじめではないが、今年度は、生徒指導事案が何件か生起したが、適正に対応したと考えている。本校は普段落ち着いているので、いざ生起した場合に戸惑うところがあったのかもしれない。

- ・どの学校も人間関係でちょっとしたトラブルはあるはずだ。かつての指導ではうまくいかなくなっているところもある。SNSのこともある。そのようなことへの対応の難しさも反映しているのだろうと思う。

→頻繁に生徒指導を行っている学校であれば、慣れている部分もあるだろうが、そうではないところだと思う。

- ・【生徒の意見】の7番で、いじめのところだけ8人ほど回答者数が少ない。いじめがあった場合に対応してくれるという問いになっているので、「いじめなどない」、「知らない」という場合は書けないだろうと思う。実際に、未回答ということが起きており、そこは率が高く（33人中25人が回答、8人が未回答）、約20%。このことについて分析ができているなら教えてほしい。未回答を分母まで入れる必要があるとは言わないが、少ない中で率を求めたらよいのではないかなと思う。

→おそらく、「そのような事案が自分に発生しないのでわからない」ということだろうと思う。

- ・「いじめを見たことがない」ということではないだろうか。
- ・学校は真剣に対応しているし、その前の体制もできているということだと思う。いじめが見えなかった生徒にとっては、対応したかしていないかと聞かれたら、対応していないということで済んでいるということで回答したとことが想像できる。
- ・新聞などでは、いじめは見えないところでやっているということを見聞くが、夜間の定時制の場合は、母語が異なったり、年齢も違う。生徒同士、自分たちだけで、人生経験が豊富な人から参考となる意見を聞き、解決できるいいところだと思っていて。そのような良い要因もあり、回答していない人がいるように思う。

- ・文部科学省の生徒指導の流れでは、起こってから対応するのではなく、起こらないような土台をつくることのほうが大事ということがある。それができているということで、逆に他の先生に相談できるということだろうと思う。
- ・年齢の低い人や人生経験の豊富な人も在籍しているので、気軽にアドバイスしてもらえるところもあると思う。
- ・【保護者の意見】の11番に、教育情報についてというところがある。中学校においても、今後保護者への周知の方法を工夫していかなければならないと考えている。貴校では、保護者に対して、学校生活や教育情報をどのような形で周知しているのか。
- 一例であるが、生徒は読書が苦手であり本を読まないこともあり、本校では読書の推進に力を入れている。興味・関心を引くような本をチョイスした「学習室だより」を毎月発行している。閲覧した生徒・保護者には、何か感じていただいていると思っている。
- その他、「進路だより」をホームページに掲載し、紙媒体でも配付し周知している。
- 2年次生では、連絡が必要な保護者は少ないが、連絡が必要な家庭についてはこまめに連絡を取っている。重要な連絡については保護者懇談会にて情報提供をしている。

3 令和6年度学校経営計画及び学校評価（案）、令和7年度学校経営計画及び学校評価（案）について

- ・不登校の生徒が、指導の中で変容したという事例があれば紹介してほしい。
- 定時制に入学後、学習環境（少人数で落ち着いた環境）に馴染み・安心感を持ったことで成長に結びついた事例を紹介したい。今年度の文化祭において、クラスで劇をすることになったが、当日、主役の生徒が休んでしまった。困った状況の中で、中学校時代に寡黙に近い生徒が、主役を申し出て、マイクなしで、全生徒の前で主役を演じきり、みんなを驚かせた。
- その生徒は、入学時には、あてたり、発言を求めたりしないように配慮が必要な生徒だったが、舞台上で演じきった姿を目の当たりにし、驚き・感動した。
- ・奏功の原因は、友だちとの安心感か？
- 生徒・教員間というよりは、生徒間でよく会話をしているところを見かけることが多くあった。同じように不登校を経験した生徒どうしが集まった中で、話しやすかったと思われる。
- ・今年度達成できなかったことを次年度は必ず達成されるのだろうと思うので、今後の頑張りに期待したい。
- ・定時制の場合は、生徒に年齢差がある中で、人生経験が豊富な人からアドバイスが

もらえるので、もっと活用すれば良いと思った。

- ・ PC の画面の良さもあるが、紙媒体の良さもある。2 つ並べて、一方に興味がなくとも、もう一方が目に入って、気づきや興味がわいてくる良い面もある。定時制高校では、このことは大事な点だと思う。
- ・ 年齢の異なる方々やルーツの異なる方々がゆっくり教員の指導で学んでいく場が、私学（通信制高校）にはないし、他の公立高校にもあまりない。情報化の推進も大事だが、まさに人間にとって大事なことを述べていただいたと思う。そのような工夫も含めて、学校経営計画の内容について一層進めていただきながら、中学校や社会への宣伝をしていただけたら良いと思う。

※ 令和 6 年度学校経営計画及び学校評価（案）・令和 7 年度学校経営計画及び学校評価（案） → 承認

次回の会議日程（予定）	
日時	令和 7 年 6 月 30 日（月） 15:00～16:00
場所	大阪府立大手前高等学校 会議室